

# 低血圧治療剤一覧表

アステム社内資料  
H22.9

商品名	リズムック錠10mg	メトリジン錠2mg、D2mg	ジヒデルゴット錠1mg	エホチール錠5mg、注10mg	ドブス細粒2%、カプセル100mg、200mg
会社名	大日本住友	大正富山	ハルティス	日本ペーリナー	大日本住友
一般名	メシル硫酸アミノニウム	ミドドリン塩酸塩	ジヒドローロコタミン塩酸塩	エフレリン塩酸塩	ドトシトハ
適応症※	本態性低血圧	① ●	●	●	
	起立性低血圧	① ●	●	●	③
	症候性低血圧			●	
	その他	②透析施行時の血圧低下の改善		片頭痛(血管性頭痛)	網膜動脈の血行障害
規格	10mg 錠	2mg 錠	1mg 錠	5mg 錠	100・200mg カプセル 20% 細粒
用法	①1日2回 ②透析開始時に1回	1日2回	1日3回	1日3回	③開始時は1日2～3回 維持量は1日3回 ④透析開始30分～1時間前
用量(1日量)	①20mg ②10mg	4mg 最大量：成人8mg、小児6mg	3mg	15～30mg	③開始時：200～300mg 数日～1週間毎に1日量100mgずつ増量 標準維持量：300～600mg (最大900mg) ④200～400mg (最大400mg)
主な副作用	動悸、頭痛、嘔気・嘔吐、ほてり感、 高血圧等	頭痛、悪心、腹痛等	悪心・嘔吐、食欲不振、発疹・そう 痒、眠気、口渇、動悸、手指冷感等	心悸亢進、口渇、悪心等	悪心、血圧上昇、頭痛・頭重感、幻 覚、食欲不振、めまい、胃痛、動悸等
禁忌	高血圧症、甲状腺機能亢進症、褐色細胞腫、 狭隅角緑内障、残尿を伴う前立腺肥大	甲状腺機能亢進症、褐色細胞腫	末梢血管障害、閉塞性血管障害、狭心症、 冠動脈硬化症、コントロール不十分な高血圧症、 ショック、側頭動脈炎、重篤な肝機能障害、 敗血症、妊婦又は妊娠している可能性のある 婦人、授乳婦、過敏症、HIV7 <sup>+</sup> 7 <sup>-</sup> ゼ <sup>+</sup> ソ外在・エフェレンツ・5- HT受容体作動薬・テラビルジン・マクロライド 系抗生物質・アゾール系抗真菌薬・麦角アル 加イト <sup>+</sup> 投与患者	甲状腺機能亢進症、高血圧	過敏症、閉塞隅角緑内障、ハロゲン等のハ ロゲン含有吸入麻酔剤の投与、インプロメニール 等のガコールミン製剤投与患者、妊婦又は 妊娠している可能性のある婦人、重篤な末梢 血管病変のある血液透析患者
作用機序	$\alpha 1 \cdot \beta 1$ 両受容体刺激剤<間接作用> (交感神経内のノルアドレナリン不活化抑制及び 放出されたノルアドレナリンの再取り込み抑制作用)	$\alpha 1$ 受容体刺激剤<直接作用> (動脈・静脈両方を収縮)	$\alpha 1$ 受容体刺激剤<直接作用> (静脈を収縮)	$\alpha 1 \cdot \beta 1$ 両受容体刺激剤<直接作用> (心拍出量の増加及び細動脈・静脈収縮)	$\alpha 1 \cdot \beta 1$ 両受容体刺激剤<間接作用> (ノルアドレナリンの前駆物質としてノルアドレナリンの 産生を促進)
発売年	1991	錠:1989、D錠:2004	1978	1961	1989(④適応追加:2000)

※：低血圧関連のみ

③：シャイドレーガー症候群、家族性アミロイドポリニューロパチーにおける起立性低血圧、失神、たちくらみの改善

④：起立性低血圧を伴う血液透析患者におけるめまい・ふらつき・たちくらみ、倦怠感、脱力感の改善

詳細は添付文書等をご参照ください

参考：各添付文書、インターネットフォーラム、医薬ジャーナル(Vol. 29, No. 4, 1993, Vol. 32, No. 6, 1996)